

平成 28 年度萬鉄五郎記念美術館運営委員会会議録

日時：平成 29 年 3 月 22 日(水)15：00～17：05

場所：萬鉄五郎記念美術館付属八丁土蔵 2 階

1 開 会

- (1) 15 時 00 分、平野副館長が委員 10 名中 9 名の出席により会議が成立する旨を告げ開会。欠席通告は西郷晃委員 1 名。
- (2) この会議は、花巻市審議会等の会議の公開に関する指針により公開するものであり、会議結果についても公表することとなっているので、会議録を調製し、委員各位の確認終了後、公表手続きを行うことを説明。

2 挨拶

【市長代理 市川清志生涯学習交流課長】

- ・年度末の多忙な中ご参集いただき感謝。日ごろからこの萬美術館をはじめとして様々な芸術文化活動にご尽力をいただき感謝申し上げます。
- ・本日は、来年度の企画展事業についてご意見をいただきたい。
- ・また、美術館収蔵施設を強化する必要があると認識しているが、市全体の施設を含め予算的に厳しいものがあるものの、29 年度で本格的にしっかりした計画をたてたい。
- ・運営委員各位からもいろいろ意見をお聞きしたいので、一層の協力をお願いしたい。

【中村光紀館長】

- ・28 年度の企画展について、「萬鉄五郎を解いて、見る。展」は、美術関係者や著名人から寄稿して頂き、それをもとに構成したユニークな企画展であり好評であった。短期間での取り組みであったが、日頃の学芸の人脈があればこそ為せる企画であった。
- ・「みつはしちかこ 小さな恋の物語展」は、彼女の全国初の展覧会で、県内外から大勢の来館者があり、特に女性や家族連れの入館者で賑わい盛況であった。
- ・杉村英一展については、彼が N39（岩手の前衛美術家グループ）の一員として真摯に制作に取り組んだ美術家で、鑑賞者から高い評価をいただいた。
- ・内村皓一展は、写真展であったが、今見ても新鮮さ、新しさを感じる良い展覧会だったと思う。
- ・土澤アートクラフトフェア実行委員会が第 34 回岩手日日新聞文化賞を受賞したが、アートで街づくり、活性化を目指す活動、取り組みが評価されたことは、大変喜ばしい。
- ・平成 29 年度では、全国 4 会場で「没後 90 年 萬鉄五郎展」を開催する計画だが、20 年ぶりの大回顧展として意義深い展覧会としたい。
- ・収蔵庫の関係は懸案事項となっており、29 年度中に方向を定めたい。よろしくご審議のほど

お願いする。

3 委員及び出席職員の紹介

新委員の委嘱後初の会議となることから、平野副館長が新委員の紹介と出席職員を紹介。

4 萬鉄五郎記念美術館運営委員会会長の選任及び会長職務代理者の指名

- ・平野副館長が会長の選出方法について諮ったところ、菅沼委員から平野広委員を推薦する意見があり、委員一同賛同し、平野広委員が会長に選出された。
- ・平野会長が、管理運営規則第8条の規定により、会長職務代理者として杉本吉武委員を指名。
- ・平野会長及び杉本職務代理者がそれぞれ挨拶。

【平野会長】

- ・紺野先生（委員）の逝去は非常に残念であり、ご冥福をお祈りする。
- ・東日本大震災の後遺症から少しずつ持ち直しているとはいえ、美術館入館者が思ったように増えない。花巻、東和が芸術で賑わう街であってほしいが、芸術ファンをどうやって増やすのか。萬の没後90年ということだが、萬美術館が拠点となって、萬や芸術が面白いと感じるような事業を望みたい。
- ・アートクラフトフェアは、ちょっとしたお願いから始まったが、この春は330店が出店し、界限は賑わうと思う。来場者には美術館にも立ち寄って萬に触れてほしい。
- ・没後90年萬鉄五郎展は、岩手県立美術館とともに親しみのある企画展となるよう期待する。
- ・収蔵庫については、皆さんから忌憚のない意見をお聞きしたい。

【杉本職務代理】

- ・萬の生前は正当な評価がなされなかったが、没後90年でスポットが当てられ、時代がようやく萬に追いついた感がある。
- ・萬美術館には、萬以外の作品については岩手県立美術館よりも層が厚く収蔵されおり、今後切れ目なく収蔵の作品を紹介し、賢治とともに親しまれる施設としたい。賢治の里とジョイントした形でさらなるパワーアップを切望する。

5 議事（以後は平野会長が議長として進行）

I 報告事項

【平野会長】

報告事項を議題とし、報告第1号平成28年度の美術館運営状況についてを議題とし、事務局の説明を求めた。

《説明》

- ・報告第1号のうち、第1基本方針から第2部門別計画1展覧会事業について平澤広主任主査が

説明。

- ・資料 3 ページ 2 教育普及事業から 5 ページまで伊藤真紀子主査が説明。

《質疑応答・意見》

【質問・菊池忠久委員】

- ・収蔵作品の一覧のようなものがあるか。

【回答・平澤主任主査】

- ・萬鉄五郎の収蔵品カタログがある。

【意見・小笠原卓雄委員】

- ・収蔵品があちこちに分散しては何かと手間がかかる。将来の美術館の在り方を根本的に見直す必要があり、市の文化施設として長期的な視野に立って話し合う時期に来ていると思う。

【質問・門馬優子委員】

- ・寄託作品の期限はあるのか。

【回答・伊藤真紀子主査】

- ・寄託期間は 2 年間とし、寄託者の意向を確認して 2 年ごとに更新している。

【意見・門馬委員】

- ・ハイビジョンソフトの上映事業は、もっと PR が必要だ。

【回答・伊藤主査】

- ・市で実施している出前講座のメニューの一つとして広報には掲載している。

【意見・菅沼碌委員】

- ・4,104 点とこんなにたくさんの収蔵品があったのかと驚いている。萬だけでなく、岩手の現代作家、物故作家の作品も沢山あると思うが、早くきちんとした収蔵庫を整備充実してほしい。

【意見・斎藤純委員】

- ・石神の丘美術館の芸術監督をやっている。美術館来場者は年間 2 万人だが、町民はその 3 分の 1 で、町民以外が多く、15 年たっても町民の理解が得られていないといわれ、難しいと感じている。
- ・萬も、美術界では世界的な有名画家だが、一般的な知名度では賢治ほどではない。一般的に文化施設の運営は難しくいつの時代でも批判があり、関係者の苦勞が窺われる。
- ・萬美術館が立派なのは、県内美術家の作品をたくさん収蔵していること。他の美術館はやっておらず、萬美術館に甘えているところがある。収蔵庫の件は、市博物館の収蔵庫を借りることも一案では。

【所感・平澤主任主査】

- ・市博物館の収蔵庫もいっぱいであり、なかなか難しい。

【意見・菊池房江委員】

- ・萬美術館は、県央の中核美術館として特徴のある美術館と思うが、子どもたちの利用が少ないのではないか。市内小中学生にはパスポートがあり、有効に利用してほしい。親子で来て小さいうちから美術に親しむ機会が増えることは、親にとっても楽しいことだと思うので、もっともっとPRしたほうが良い。市の広報などでもっと積極的に周知・案内を。
- ・収蔵施設はとても大事だと思う。新しい施設を建てる余裕がないのなら、既存施設を空調なども考えてきちんと改修し、分散しないで一か所で管理できるように予算を確保して進めてほしい。美術品や資料の種別ごとに分類してどこかの施設に振り分けるのも一案と思う。

【所感・平沢】

- ・現在収蔵している旧土沢小学校は仮の収蔵施設。これからしっかり検討して進めたい。

【意見・杉本職務代理者】

- ・これだけ収蔵施設が分散しては労力がかかって仕方がない、集中管理が望ましい。
- ・今の萬美術館は、萬鉄五郎専門の美術館とし、それ以外は既存施設を利用して分館、別館をどこかに作るのも考えられるのでは。使われていない施設をリフォームして分館にするとか。旧校舎でもそれなりの味があっているのでは。
- ・施設が増えれば人手がかかるデメリットがあるが、現況では死蔵している多くの作品の展示も可能となり将来的に見ればメリットがある。
- ・どこに何を造るにしても、これからは相応の駐車場の確保が不可欠。

【意見・門馬委員】

- ・旧岩手県立東和高校の校舎を活用できないか。

【所感・平野会長】

- ・作品の収蔵・保管に関しては、作家の多くが公立の美術館に収蔵してもらい、将来もしっかり残してもらいたいと希望している。受け入れれば、美術館としては整理や管理が必要になるが、芸術文化の継承・発展という観点で見れば、考えようによっては県がやるべきではないかと思う。市もやるが県もやるべき。
- ・ハイビジョンソフトの上映について、ユーチューブにあげたらよいかもしれない。眠らせることなく多くの人に見てもらおう方法を考える必要がある。

【質問・菊池忠久委員】

- ・収蔵作品や関連資料の整理が終了したようだが、作品一覧を公開する計画があるか。

【回答・平澤主任主査】

- ・県立美術館ではインターネットにアップしており見られるが、萬では現在そこまでは考えていない。

《集約・平野会長》

- ・他に質問、意見等ないか委員に回り、以上で報告第1号に対する審議を終了する。

II 諮問事項

《諮問》

- ・ 審議に先立ち中村館長が諮問書を読み上げ、平野会長に諮問書を手交した。

【平野会長】

諮問第1号平成29年度萬鉄五郎記念美術館運営計画を議題とし、事務局の説明を求めた。

《説明》

資料の第1基本方針及び第2の1展覧会事業について平澤主任主査、2教育普及事業から最後まで伊藤主査が説明。

《質疑応答》

【平野会長】平成29年度の運営計画について、各委員から質問、意見を求める。

【質問・菊池忠久委員】

- ・ 29年度に計画している4回の特別展の基本的な考え方は。

【回答・平澤主任主査】

- ・ 春に萬鉄五郎に関するもの、夏に一般・親子向けのもの、秋に岩手県作家のもの、冬に花巻ゆかりのものという方針で、計4企画展を計画した。

【意見・菊池忠久委員】

- ・ これまでの実績を見ると絵本原画展の入館者が多いようだ。親子で楽しめる企画を増やしてほしい。

【意見・小笠原卓雄委員】

- ・ ここ数年の企画展はコンスタントに良いレベルで推移している。今後も継続してほしい。
- ・ 集客のためには、市民・県民に目を向けてもらう必要がある。そのためには、萬が歩いた風景のウォーキングとかスケッチ展など、関心を誘うようなイベントを考えては。
- ・ 美術館友の会を組織して、来場を呼び掛けるとか目を向けさせる工夫をこらして、教育普及に努めてほしい。

【所感・平野会長】

- ・ 鉄人会という友の会的な組織があるが、高齢化が進んでなかなか大変な状況。美術研修会だけは盛況。

【意見要望・門馬委員】

- ・ いつも新たな切り口で萬に関する展覧会を企画しており感心している。29年度の萬展は岩手県立美術館と共催・共同ということなので、一緒にPRし盛り上げてほしい。
- ・ 小笠原委員から話のあった土沢を歩く企画はとても良い提案と思う。検討してほしい。
- ・ 葉祥明展は、これまでと同様に東和図書館とタイアップして一緒に盛り上げてほしい。

【要望・菅沼委員】

- ・ いろいろな美術館に行っているが、どこに行っても学芸員の仕事はきりがなく、中身も特殊な

職種である。これだけたくさんの収蔵品を抱え、年4回の特別展を企画しているが、収蔵品のこと、企画展のことなど学芸員2人のキャパには手に余る。美術館の人数が減らされ忙しすぎるように見えるし、ほかのことには関わる時間が取れないように感じる。元の体制に戻すべきと思う。

【所感・佐藤牧子委員】

- ・以前、花巻市に美術館を作る活動をしてきたが、合併したことで萬美術館があるため立ち消えとなった。花巻にちゃんとした美術館があって、ここは萬専門となれば理想的と思う。
- ・文化や芸術は利害で片付くものではない。せつかくの施設がお荷物みたいにみられるのは悲しいことだ。

【所感・菅沼委員】

- ・東和は「美術の街」で盛り上げようとしており、自分もいろいろ活動しているが、市はこうしたことにあまり目を向けてくれない。せめてこの美術館が、何かの形でかわり、作家やその創作活動を拾い上げてくれる施設になってほしい。

【所感・斎藤委員】

- ・4,000万円あったら美術館よりも保育園の無料化のほうが良いとか。美術館は金食い虫だ、贅沢だといわれる。
- ・芸術は大事なものだから今も残っているのだが、そういう漠然とした説明だけでは行政は金を出さないし、住民も理解しないのが実情。

【要望・菊池房江委員】

- ・萬展では県立美術館でオープニングセレモニーがあるようだが、その際館長には、萬鉄五郎を育んだ土壌についても大いにPRしてほしい。
- ・ふるさと歴史資料館は解体の方針ということだが、現在収蔵しているものをどうするのか、しっかり順序立てて計画し進めてほしい。

【意見・斎藤委員】

- ・葉祥明展は、東和図書館だけでなく、県内図書館にもPRしたらいい。大人向けの紹介コーナーも作ってくれと。

【所感・杉本委員】

- ・とかく美術は力が弱くて趣味のものと決めつけられているが、萬美術館は、県立美術館とは違う萬のコンセプトでまだまだ発信力がある。優先順位を考えて事業の計画を立てる必要がある。
- ・花巻にとって萬は、郷土が生んだ作家ということで、子どもたちの自負心を高めるすごい財産だと思う。アートの街か温泉の街かなど、地域の特徴を生かし子供たちを巻き込み美術館と賢治を結びつけてもよい。
- ・都合のよい時だけアート、アートというのではなく、芸術にもっと行政の熱意がほしい。そのためにも美術館が早く手を打ち美術に目を向けさせるような行動が必要。

【意見・小笠原委員】

- ・ここは敷地が狭く、美術館増築、規模拡大となると問題がある。ここはそのまま残して萬や資料研究施設とし、花巻全体の施設として、市民が恩恵を受けやすい花巻の中心部に別館を作る、あるいは、図書館と複合的な美術館を考えると、市民の同意を得られるような方向で検討が必要。

【意見・菊池忠久委員】

- ・萬の作品に接する機会を増やすためには、施設の建設はハードルが高いため、いろいろな場所を借りて展示するなど、移動絵画展のようなことは考えられないか。

【所感・中村館長】

- ・美術館の収蔵品に関していえば、萬鉄五郎の作品だけでは美術館として発展性がない。美術の裾野は広く、萬に影響を受けた作家もたくさんいる。萬美術館は、県内第1号の公立美術館だったことから、萬以外の作家や遺族、収集家からたくさんの作品が寄せられ現在に至っている。
- ・現在は、収蔵品だけである程度の展覧会は開催できるだけの作品量があるので、今後はこれらもいろいろ活用して評価を高めたい。
- ・美術館の収蔵庫は、本当は展示室と同じ大きさが必要。皆さんの意見を伺いながら整備を進めていきたい。

【所感・市川生涯学習課長】

- ・市全体の予算が厳しい中、福祉や子育て、教育に予算を取られがちだが、美術・芸術の必要性をよく説明して予算を確保していきたい。
- ・本来、子育てのためには美術が必要なはずだが、なかなか理解を得られない。絵本展などを例に、人づくりには美術が必要だということを親にもアピールして鑑賞を促すなど、美術館関係の予算を確保したい。
- ・学芸員については、市職員全体が少なくなっている現状にあり、学芸員を増員するのは難しい。皆さんの協力を得ながら工夫して頑張りたい。

《意見集約・平野会長》

- ・諮問第1号の内容について、当運営委員会は原案を可とすることに異議がないか諮り、満場で原案通り答申することに決定。提案された意見等は、整理の上付帯意見として答申書に記載することとした。

《付帯意見の参考としての質疑》

【門馬委員】

- ・ふるさと歴史資料館がなくなった後どうなるのか。

【市川課長】

- ・現在のふるさと歴史資料館は耐震上問題がある。また、博物館収蔵庫は余裕がない。旧土沢小学校に移すとか、29年度で、防火設備、警備など必要な問題を考慮した収蔵施設の改修・整備

を計画化する。

【平野会長】

・旧東和高校の利用は可能か。県との協議は必要だが、いろいろな選択肢の一つとして検討してみてはどうか。

【市川課長】

・県の施設であり疑問があるが、検討の余地はあると思う。

6 その他

平野会長が各委員にその他の意見や要望等を求めたがなく、以上で議長職を退任する旨告げた。

7 閉会

17時05分、平野副館長が閉会を告げた。